

〔第7回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

糖尿病から認知障害を誘導するミッシングリンクの探索
—脳インスリン様シグナルをインターフェイスとして

統合加齢神経科学研究部

田口 明子 部長

2016年3月8日(火) 16時30分

第1研究棟2階大会議室

代謝異常に起因する生活習慣病は認知症の発症に関与することが近年の臨床および基礎の両研究から明らかになり、認知機能は脳内だけで制御される訳では無く体系的に調節される可能性が考えられる。

統合加齢神経科学研究部では、代表的な代謝疾患である糖尿病が認知機能へ与える影響について着目し、正常脳老化から認知障害、認知症発症に至る誘導過程を明らかにすることにより、認知障害および認知症の新たな予防・治療法の確立を目指している。

糖代謝調節経路であるインスリン様シグナルの脳における機能については未だ不明な部分を多く残しているが、当研究部では糖尿病と認知障害および認知症の両疾患を結ぶ分子経路として脳インスリン様シグナルが重要な役割を果たすことを明らかにしている。本会では、脳と末梢組織の糖代謝およびインスリン様シグナルの動向と認知機能の変化の関係について改めて整理しながら、最近の知見について紹介し議論したい。

座長：庵原 耕一郎